

口蹄疫終息を迎えて

口蹄疫により牛、豚等の家畜が全て犠牲になった新富町に、11月1日、ついに牛が帰ってきました。町民の皆様の生活にも落ち着きに戻り、商店街にも少しづつにぎわいが戻ってきたように思えます。しかし、口蹄疫が残した爪痕は余りにも大きく、壊滅的な被害を受けた本町の畜産業の再生や地域経済・地域活力の本格的な復興は、これからがまさに本番です。

我が国の畜産史上例を見ない未曾有の被害をもたらした今回の口蹄疫は、県内で29万頭余りにも及ぶ家畜が処分され、本町を含む東児湯全域では牛、豚等が1頭もいなくなるという想像もできなかった事態をもたらしました。畜産農家の皆様の無念さ、絶望感、言葉では言い尽くせないものであったと思います。この間、ウイルスの感染拡大を阻止するという目的のために、国内で初めてワクチン接種も導入されました。本県の、ひいては日本の畜産を守るために、まさに断腸の思いでワクチン接種を受け入れていただいた畜産農家の皆様の心情を思うと、今も胸が引き裂かれる思いがいたします。殺処分が決まっても、最後の日まで愛情を込めて飼育された畜産農家の皆様に対して、改めて敬意を表したいと存じます。



東京駅での口蹄疫支援感謝新富フェア

また、口蹄疫の感染拡大は地域の経済活動を阻害し、運輸、商業、飲食、観光等あらゆる産業に深刻な影響を与えました。さらに、口蹄疫の拡大に伴い様々なイベント等が中止・延期されていく中、県が非常事態宣言を発して以降は、一般県民にも不要不急の外出を控える等の要請がなされるなど、町民生活にも大きな影響がありました。多大なご不便とご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げますとともに、終息宣言の日まで忍耐強くご協力をいただきました町民の皆様のご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。

さて、口蹄疫の終息宣言を受け、町では本町の畜産業の復興と地域経済・地域活力の再生を図るため「口蹄疫から立ち上がれ！しんとみ元気再生計画」を策定し、国や県に対して支援依頼を行うとともに、安全・安心な畜産経営の、再構築支援、復興イベントの開催、イメージアップを図るための本町PR、町内での消費活動を促進する事業等、様々な取り組みを始めています。合わせて4か月にわたった口蹄疫との闘いが、どのようなものであったかをまとめ、町民の皆様にご紹介するとともに、今後の防疫活動にも活かしていくこととしております。今回、広報しんとみ号外として、その一端をご報告し、今後の畜産業の復興と地域経済

地域活力の再生に当たって、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

最後になりましたが、口蹄疫終息に向けて多大なるご尽力をいただきました県、自衛隊、町内消防団、町内関係団体等の多くの皆様並びに町内外から寄せられました心温まる多くの激励や義援金に対しまして、この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。

やっど新富！
がんばろう新富！

新富町長 土屋 良 文



町営牧場に建てられた記念碑